

「住み心地の良い町」日本一を目指して

住民が地域を愛し、地域を誇り、そして地域に暮らす意義を
実感できる住民本位の社会を目指します。

遠藤ひろし



遠藤ひろしの目指す町づくり (アクティブ心のまちづくり構想)

新しい地域経営

市川三郷町に限らず小規模な地方自治体の財政は厳しい状況にあります。そのため、経営的視点を取り入れることにより、効率的で公平な行財政の運営を行います。

- ・ 三珠庁舎、六郷庁舎は住民サービス窓口の機能を残し、他の業務を本庁舎に集約することで行政の効率化を図ります。また、集約化により生じる庁舎の空きスペースを町民の活動拠点として整備することにより、地域経営の担い手である町民の活動を支援するとともに、民間の経営能力を導入して収益性を確保します。
- ・ “みたまの湯”の町民入浴料を半額にするなど、町が所有する公共施設などの町民財産を有効活用し、町民にその利益を還元します。
- ・ “大門碑林公園”については存廃を含め活用策を検討していきます。
- ・ 公共事業等における公平性を確保するために第三者機関によるチェックができる体制を構築します。
- ・ 町民サービス拡充のため町職員の更なる資質向上を図ります。(人事交流、人事異動)

教育・子育て

武田信玄公は「人は石垣、人は城」と言いました。「まちづくりは人づくり」とも言います。市川三郷町発展は「人材育成」にあります。

地域を愛し、地域を誇り、そして地域に暮らす意義を実感していただかなければなりません。乳幼児からお年寄りまで幅広い世代における「人材育成」は私の政策の最重要課題です。

- ・ 教育委員会が取り組む教育政策を実現するため、財源確保など積極的に支援します。
- ・ 25人学級の先行推進と少人数教育の一步先を行く学校教育を推進します。
- ・ 中学生までの給食費無料化の実現に向け取り組みます。
- ・ いじめ・虐待などで悩む子どもを守るため、SNSの活用を含め気軽に相談できる体制を確立します。
- ・ 他市町の病児・病後児保育施設を利用できるよう、他市町との相互利用体制を整備し、子育て家庭を応援します。
- ・ 市川小学校体育館、給食センターが土砂災害警戒区域内にあることから、市川小学校体育館については災害時活用も考慮した建て替えを進めます。また、給食センターについても、町内3カ所にある給食センターの集約化も視野に入れ建て替えを進めていきます。
- ・ 公園などの町有施設へおむつ替え台を設置するなど、子育て世代に優しいまちづくりを推進します。

国際化の波は、都市、地方を問わず急速に押し寄せてきています。また、インターネット社会では瞬時に世界中の人や情報にアクセスできるようになっています。日常英会話を中心とする英語教育とICT（情報通信技術）を活用し、これからの社会が求める人材の育成に向け取り組みます。

- ・ 国際化に対応する人材育成のため“しゃべれる英語教育”を推進します。
- ・ 英語専科教員を増員するなど小学校での英語教育を強化します。
- ・ “しゃべれる英語教育”推進のため各小中学校と青洲高校、山梨大学との相互交流を確立します。
- ・ 英語の学力向上のため、ICTを活用した姉妹都市マスカティーンとのリモート会議による授業や諸活動の交流を行います。
- ・ 大型ディスプレイやデジタル教科書の導入などICTを活用した先進教育を推進します。

「地域愛」醸成のため、歴史・伝統・文化・産業などを学ぶ“地域学”を推進します。

- ・ 地域学を授業に取り入れている青洲高校の公開授業の小中学校での開催、先生や児童生徒間の交流により“地域学”を推進します。
- ・ 町内の歴史や文化風俗、終戦体験を聞き取り、音声や映像などで図書館に残す“ふるさと記憶遺産プロジェクト”を推進します。

医療・介護

身近な医療の充実は、安心して生活していくために必要です。また、高齢化の進展に伴い介護サービスの充実も欠かすことができません。

峡南医療センターを中心とした医療体制の整備と多面的な介護サービスの構築を推進します。

- ・ 国、県、富士川町と連携して“峡南医療センター”の健全な経営を支援します。
- ・ “富士川病院”との役割を分担した“市川三郷病院”の建て替えを推進します。
- ・ 六郷支所の空きスペースを活用し、トレーニング型デイサービス施設を誘致します。
- ・ 高齢者向けサービス付き住宅を誘致し、高齢化社会に対応した町づくりを推進します。
- ・ 介護ヘルパーや介護士不足対策として、町社会福祉協議会が介護職員初任者研修を実施できるよう支援します。
- ・ 介護サービスの担い手として、買い物・掃除・ごみだしなど高齢者の日常生活を支える生活支援サポーター制度を構築します。

経済・産業

中部横断道開通は、本町のみならず峡南地域も大きな期待を寄せています。特に、六郷インターは、無料区間と有料区間との結節点で、六郷・甲府南インター間の一般道路利用が見込まれます。通過車両に立ち止まってもらうための仕掛けが必要です。

本町の豊富な地域資源を活用し関係機関との連携を以て地域経済の繁栄に向け取り組みます。

- ・ JA山梨みらいと協力し、新たな農業の担い手となる新規就農者を確保し、耕作放棄地の解消に努めます。
- ・ 六郷地区に施設園芸（植物工場）を誘致し、耕作放棄地の解消と雇用の確保対策を行います。
- ・ “つむぎの湯”についてはサウナの設置、農産物や特産品の直売所の充実などの施設整備を行ったうえで、民間の経営能力を活用し更なる活性化を目指します。
- ・ ドローンを使った防除の実施など、先進的な農業の取り組みに対し支援します。
- ・ 町内の事業者の町に対する要望を汲み取る意見交換の場を設け、町と企業が協調発展できるよう支援体制を構築します。
- ・ 和紙、はんこ、花火などの伝統産業をトップセールスで支援します。
- ・ 神明の花火を日本三大花火大会と肩を並べるようなビックイベントにしていきます。

交通・インフラ

通学路の整備、歩行者の安全対策に努め「住み心地の良い町」の実現の基盤となる道路の拡幅、歩道・通学路の整備を推進します。

- ・ 岩間地内の県道の道路整備及び街並み環境整備を促進します。
- ・ 芦川橋から市川大門中央通りまでの道路拡幅、南線と北線を結ぶ道路の整備を推進します。
- ・ 県道笛吹市川三郷線の畑熊地内、西八代縦貫道（三澤～市之瀬間のバイパス）の整備を同整備促進期成同盟の活動を通じて促進します。

防災・安全

防災・減災、国土強靱化対策は、「住み心地の良い町」を実現するためにも重要な対策です。今まで活動してきた人脈と経験を活かしその予算の確保、推進に努めます。

- ・ 黒沢大木地区など災害時に孤立化する危険のある地区について、複数の道路（多重性）を確保します。
- ・ 豪雨による浸水被害を未然に防止するため、上野、大塚、下大鳥居地区の排水機場の整備を促進します。
- ・ 豪雨災害を未然に防止するため、河川内の土砂や立木の撤去など河川整備を推進します。
- ・ 安全・安心で住み心地の良い町とするため、現在ある交番、駐在所の存続に努めます。

住まい方

「住み心地の良い町」を実現するためには、愛着の持てる地域であること、快適な生活環境が整っていること、若年人口の増加により活気に溢れていることなどがが必要です。市川三郷町に住んで良かったと思える町づくりを推進します。

- ・ “地域愛”を育み地域の活力向上のため、伝統あるお祭りの存続、継承を支援します。
- ・ “地域愛”醸成のため、古墳、代官所跡などの史跡を整備し、次世代に引き継ぎます。
- ・ 中央市浅利地区に新設されるゴミ処理場の影響について協議する場として、山梨西部広域環境組合、大塚地区農業団体などと町で構成する連絡協議会を設置します。
- ・ 人口対策として大塚地内にPFI（民間資金と経営能力）を活用した町営住宅を建設します。
- ・ 空き地、空き家の所有者が、ふるさと納税により空き地、空き家の清掃などを受けられる制度を積極的に推進します。
- ・ 2拠点居住や移住・定住による人口の増加を図るため、国・県の制度を活用し“お試し住居”などの施策を実施します。